

猫にエサを与える前に

飼い主のいない猫へのエサやりは様々な問題が発生しやすく、近隣住民からの苦情・相談が多く寄せられています。

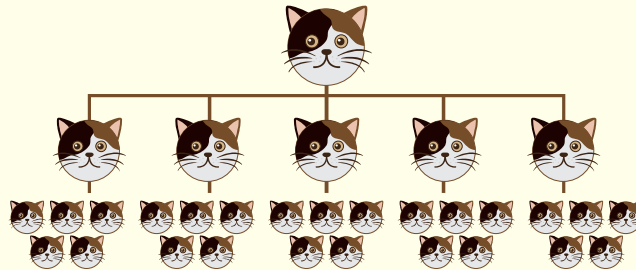
「かわいそうな猫を助けたい」という気持ちを持つことは大切なことです。しかし、ただエサを与え続けることで、近隣に迷惑をかけて「猫が嫌い」というかたを増やすことになっては、猫にとっても人間にとっても不幸なことです。

猫を優しく見守ってくれるかたを増やし、猫が幸せに暮らすことのできる方法を考えてみませんか？

『エサを与えることによる影響』

全体への影響

- ・エサを得られる場所に猫が集中
- ・繁殖による猫の増加
- ※通常、猫が妊娠・繁殖可能になる月齢は生後6～9か月で、年3回以上の妊娠・出産が可能です。1回の出産で平均5匹産まれるとされています。



人への影響

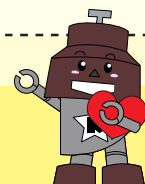
- ・ふん尿による汚れ・臭い
- ・衛生害虫（ハエなど）の発生
- ・発情した猫の鳴き声
- ・猫同士のケンカによる騒音

物への影響

- ・畑や花壇を掘り返すなどの被害
- ・樹木や植え込みに尿をかけることによる枯れ死
- ・車に登ることによる傷
- ・爪とぎによる傷

不幸な猫の増加

- ・交通事故
- ・生まれた子猫の死（餓死・カラスに襲われる・病気など）
- ・猫同士による感染症の感染機会の増加



『トラブルを減らすために』

問題解決のためのヒントです。答えはひとつではありません。

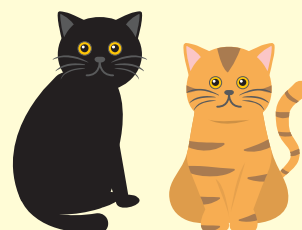
不妊・去勢手術

- ・猫の数を増やさない。
- ・将来的に猫の数を自然に減らすことを目標とする。

※川口市では「飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成金制度」があります。詳細はお問い合わせください。

飼い猫化

- ・室内飼い、大型ケージ、猫舎などでの飼育方法の検討。
- ・新しい飼い主探し。



エサやりの配慮

- ・エサを与える猫を決め、匹数分の器を用意する。
- ・近隣に迷惑をかけないように、決められた時間に決められた量を与える。
(過量のエサは病気や繁殖につながります。)
- ・食べ残しを放置しない。(放置すると、さらに猫が集まります。)
- ・「私がエサをあげなければ飢え死にってしまう」というのは思いこみ。
(猫は複数のエサ場をなわばりとして生活しており、1か所でエサが得られなければ、別の場所に移動します。複数のかたがお互いを知らないままエサを与えていることもあります。食後に散歩している飼い猫や自力でエサを取っている猫かもしれません。)

トイレの設置

- ・自宅でエサを与えている場合は、猫のふん尿で近隣に迷惑をかけないように、自宅敷地内にトイレを設置し、清掃する。
- ・自宅以外でエサを与える場合は、その施設管理者の承諾が得られたら、エサを与えるとともにトイレを設置し、清掃する。
(猫は食後にトイレをする習性があります。エサ場の近くに木やブロックなどで作った囲いや、プランターなどの中に掘り返せるような柔らかい砂や土を入れるとトイレになります。マタタビ粉を混ぜると効果的です。)

近隣への配慮

- ・「将来、猫の数が減ることを目指す」など、具体的な目標と方法を決めたくて、長期的な視野で理解してもらうように努める。
- ・「猫が集まる原因は、エサを与える自分にある」ということを忘れない。
(「いいことをしているのだから」という主張は自己中心的な理由であって、他人に対しては押しつけになります。)
- ・「ご近所に迷惑がかかっていないか？」という配慮があって、はじめて理解を得ることができる。(誰もが猫へのエサやりを望んでいるわけではないことを認識しましょう。)